第22回

ていねいな暮らしのあったころ

佐野一彦の撮った伊深の里山

め、祖母が子守をすることもありました。一緒に遊ぶこともありましたが、通常は祖母も、家での作業をしながら子守をしました。子どもは、そばで作業の様子を見たり、時には簡単な手伝いをしたりしました。また、用事を済ませるために近所へ出掛けるときは、孫を連れて行きました。

子どもは祖母の背中越しに、暮らしの営みを覚えていきました。

「孫をつれて卵を出しに」　昭和39年3月10日撮影

「孫の子守」

右の写真は、自宅で飼っている鶏が産んだ卵を農協へ出しに行くとき、孫をつれているところです。また、下の写真は、縁側でわたを取っているところに、近所の人がねんねこばんてんを着て孫を背負い、作業を眺めながら子守をする様子です。

農家では、夫婦で共に農作業をする日もあるた

「綿くりと子守」　昭和38年2月3日撮影